

## 第5回庄原市長期総合計画審議会 会議録（摘録）

1. 開催日時 令和8年1月29日（木） 9：30～
2. 開催場所 庄原市役所 本庁舎5階 第1委員会室
3. 出席委員  
上水流 久彦 委員 ・ 名越 千晴 委員 ・ 板倉 一弥 委員  
伊藤 郁夫 委員 ・ 上田 正之 委員 ・ 大原 一展 委員  
八野 祐次 委員 ・ 岡崎 輝子 委員 ・ 今田 貴子 委員  
早川 太 委員 ・ 川崎 弘子 委員 ・ 廣澤 伸高 委員  
東 泰治 委員 ・ 田邊 良三 委員 ・ 織田 みね子 委員  
表 良則 委員 ・ 福元 奈津 委員 ・ 島津 宏 委員  
垣内 絵理 委員 ・ 水戸 美代子 委員
4. 欠席委員 児島 茂春 委員 ・ 土井 幹雄 委員 ・ 林 充 委員
5. 出席職員  
企画振興部長 足羽 幸宏  
企画振興部企画課長 田部 伸宏  
企画課企画調整係長 安藤 秀明  
企画課企画調整係 山上 翔大
6. 傍聴者 9名
7. 会議次第 別紙のとおり
8. 会議経過 別紙のとおり

## 第5回 庄原市長期総合計画審議会 次第

令和8年1月29日（木）9：30～  
庄原市役所 本庁舎5階 第1委員会室

1. 開会

2. 会長挨拶

3. 議事

(1) 報告事項

(2) 第3期長期総合計画（答申案）について

(3) 答申について

4. 意見交換

5. その他

(1) 今後のスケジュール（予定）

6. 閉会

## 会議経過

### 1. 開会

### 2. 会長挨拶

12月に原案の作成、パブリックコメント等を行い、一部修正をしたうえで今回、答申案を作成している。本日は、いただいた意見を踏まえた修正案についての議論が中心である。答申案について確認の上、審議会としての最終的な答申案にまとめていければと思う。

本日が、第3期長期総合計画の最後の審議会となる。1年以上に渡り、様々な議論を行っていただいた。本日の審議会におきましても活発な議論をお願いします。

### 3. 議事

#### (1) 報告事項について

資料1により事務局が説明

委員：資料1の6番について、「若い人が市民の期待に応える」との表現は、若い人にとってはプレッシャーに感じられる懸念があるという部分について、今回のスケジュールの中で、整理するのは難しいと思うが、このような質問や意見について、実際に若い人たちに投げかけ、若い人たちが自身がどのように感じているのか聞き、その声を吸い上げる場をつくるのが、計画をつくる上で非常に大切ではないかと思う。そのような経験を通じて、市民としてのやる気や誇り、責任感といったものが育まれていくのではないかと思う。今回すぐに反映するというよりも、今後に向けた課題、今後の取組に対する意見としてお伝えした。

資料1の13番の回答修正を読んで感じた点として、「鳥獣被害の実態は、現時点では十分なデータを指標として示すのが難しい」とあり、書いてある内容はその通りだと思う。一方で、この鳥獣被害の問題は非常に深刻で切実な課題になってきていると感じている。そのため、現時点では指標化できないかもしれないが、鳥獣被害等に対応するための勉強会や今後行う予定の取組等、実際にどのような検討が進められているのか知りたいと思う。

資料1の26番の英検3級に関する記述については、専門部会で質問をし、その場では指標としてはふさわしいようにも感じたが、これは強みというよりも、グローバル人材の活躍をどう位置付けるかという話だと思った。どのような人をグローバル人材と考え、どのようなかたちで活躍して欲しいのか、ということが計画からは分かりにくいと感じる。例えば、庄原ならではの職種や庄原市で伸ばせたことを生かして、それを世界に向けて発信していくことを

考えた場合、必要なのは単に英語力だけではなく、自分自身の技術や特技、あるいはそれを相手に伝える力ではないかと考える。その意味で、計画の中で描かれている「グローバル人材」の姿が、現時点では十分に見えてこないと感じた。

事務局：まず、6番については、これまでも様々なご意見をいただいております、この後のパブリックコメントにおいても、ご意見をいただいた。繰り返しの説明になるが、過度な期待を押し付けることを意図しているものではない。この考え方は、子どもだけではなく、このまちで学ぶすべての人に関わるものだと考えている。とりわけ若い方々に対して、そのようなプレッシャーがかからないようにという点については、十分に配慮していきたいと考えている。

また、資料の作成にあたっては、写真の使い方なども含め、中高生向けのものを作成することを予定している。会議の中で「つくるだけではだめなのではないか」というご意見もあったかと思う。その点については、学校での説明や出前トークなどに加えて、こちらから出向いて説明や対話を行う場も、しっかりと設けていきたいと考えている。特に、中高生については、我々の思いを丁寧に伝えていくとともに、若い方々の感性を受け止める場をつくることが重要であると考えている。そのような取組を通じて、計画の真意を伝えていきたいと考えている。

有害鳥獣対策について、被害の実態を示すデータは、現場の感覚としても把握が難しい側面があると認識している。その点については、この計画の指標に位置付ける、位置付けないに関わらず、課題認識としては組織内でも共有している。来年度に向けた取組としても、現時点でも被害防止に向けた対応は継続して行っているが、十分な効果が出ていないという状況であれば、その原因の捉え方、あるいは実施している施策の内容のどちらかに、改善の余地があると考えている。担当課においても、次の展開として、例えば新たな技術の導入なども含め、次年度に向けた取組を検討しているところである。具体的な内容については、新年度予算の中で、どのような取組を行っていくのかをご確認いただき、改めて説明していきたい。

グローバル人材に関しては、単に英語ができる人という意味ではない。市内外を問わず、特に市民の方が大きく成長し、それぞれの強みや能力を伸ばしながら、世界で活躍していく姿を後押ししていきたいと考えている。

一方で、市外から庄原市に来られた、国際的な素養を持っている方々が、市内において様々な活動を行えるような姿も想定しており、そのような双方向の人材の活躍を意図している。しかしながら、KPIとして設定する指標については、そのような特殊な技能や多様な能力に直接焦点を当てたかたちで整理することは難しいという課題がある。そのため、指標の設定にあたっては、測定のしやすさや施策

展開のしやすさといった点とのバランスを考慮し、今回は英検 3 級を指標として設定している。ご指摘のとおり、英検 3 級のみでグローバル人材の育成や活躍を測れるものではないと認識している。そのため、こうした施策の展開全体の中で捉えていくとともに、教育分野については、個別計画である教育振興基本計画で、具体的な取組の方向性は整理していきたい。

会 長：6 番の「市民の期待に応える」という表現について、この「期待に応える」というのは、誰にかかっているのかと感じた。育っていく子どもたちにかかっているのか、育成する側にかかっているのか、少し分かりにくい印象がある。

私の理解としては、ここは「市民の期待に応じて人材を育成していく」という、市や教育委員会など、育成する側の考え方を示しているのではないかと思った。実際に、下の基本的な考え方の部分を見ても、「市民の期待に応える人材になりなさい」という意味合いの記述は見当たらないように思う。

事前に説明を受けた上で、改めて説明を聞く中でも、「市民の期待に応じて努力する主体」は、育成される側ではなく、育成する側なのではないかと思った。

必ずしも表現を変えてほしいということではないが、そのような意味合いで書かれているとも読み取れるのではないかと感じた。

委 員：資料 1 の 1 番について、前回の計画は非常に分かりやすかった。今回も字の大きさや色使い、行間などについて、十分に配慮していただきたい。今回、第 3 期の基本計画と前回の基本計画を比較したが、前回は施策の部分について、項目ごとにすることが分かりやすく示されており、非常に理解しやすい表現になっていた。それに対して、今回の計画は、全体として議会の答弁に少し手を加えただけのような印象を受けている。例えば、農業分野の記載を見ると、内容としては、どこにでも書けるような一般的な表現にとどまっているように感じた。「担い手の育成」や「高付加価値化・ブランド化」といったように、項目ごとにもう少し整理し、それぞれについて何を目指していくのかが分かるような構成にしていただきたい。あわせて、デザインや見せ方については、印刷会社とも十分に相談しながら、市民の皆さんが見やすく理解しやすい内容になるよう工夫していただきたい。

資料 1 の 12 番について、「自伐型林業は、小規模かつ分散的な林業経営者が多く、量としての確保が難しいことから、市としての費用対効果が見えにくく、特段の支援を行う対象にはならない」と整理されている。林業を産業として成り立たせるためには、自伐型林業が必要だと思う。「小規模分散的な森林所有者が多いことから、「業」としての確立が難しく、また、市としての費用対効果が見えにくいことから、特段の支援を行う段階にはない」と記載されているが、

庄原市の林業の実態を見ると、基本的には全体として小規模・分散型の林業で成り立っており、一部に大規模な林業者がいるものの、それは限られた事例である。そのような地域の実情がある中で、小規模・分散的であることを理由に支援の対象外とする考え方については、私は納得できない。将来にわたり林業を担う若い後継者を定着させていくことを考えると、自ら森林を管理・経営する自伐型林業を基本として支えていくことが重要だと考えている。そうした観点からも、この施策の考え方については、再考いただきたい。

事務局：デザインについては、皆さんが読みやすく、視覚的にもわかりやすい、理解をしやすいデザインにしていきたい。

林業については、担当部署と話をする中で現状このように整理している。いただいた意見については持ち帰り、担当課とも再度整理をしたい。

会長：デザインの部分については、概要版もつくられるとのことだが、目の見えない方に配慮して、音声版を作成するなど、検討いただきたい。

資料2により事務局が説明

委員：パブリックコメントの実施については、大変な作業だったのではないかと思います。パブリックコメントの結果について、スケジュール上、十分に反映することが難しい部分もあったのだらうと思う。いただいたパブリックコメントについて、今回の計画作成の中だけで完結するものではなく、10年後の次期計画の作成に向けて、今回のパブリックコメントが前回と比べてどうだったのか、量や内容、質でどのような違いがあったのか等を分析していただきたい。

パブリックコメントの数や内容が、シビックプライドの部分に直結するのであれば、パブリックコメントを単なる手続き上の出口とするのではなく、そこに至るまでのプロセスをどのように設計し、どのように市民参加を積み重ねていくのかという点が、この10年間の施策の実行の部分にも資すると思う。

特に、今回の計画では指標を設定して取組を進めていくという考え方が示されており、これはいわゆる目標管理による行政経営の手法であると理解している。そうした手法を採るのであれば、目標の設定の仕方や、その内容が非常に重要になってくる。パブリックコメントの内容や質、市民の関わり方といった点の分析が、こうした指標やKPIの考え方に十分に反映されるべきだと思う。KPIは、最終目標に対する達成プロセスを評価するための中間的な数値目標である。市民参加や意識の醸成といった点でも、どの程度達成できているのかを確認するための視点を設けていくことが重要だと感じる。

事務局：庁内でも、いただいた意見については色々と議論していた。長期総合計画は、策定することがゴールではなく、PDCA を回す機構をしっかりと庁内につくり、それを市民に示すことが大事だと話している。

我々も知見が足りず、内部の作業も非常に苦勞した。そのため、委員への資料提供が遅くなったり、会議の開催がずれ込んだりと大変迷惑をかけた。しかし、これまでにない方法で市の計画をつくるスタートがきれたと思っている。また、パブリックコメントや審議会、さらには議会の意見をインプットとし、何をどのように正しく行っているかをチェック・分析して、改善を行うことが重要だと思っている。市民からも、見えない点があれば意見をいただきたいし、我々も直す努力をしなければならないと思っている。

会長：パブリックコメントに寄せられた意見を分析する視点は、非常に興味深かった。今回、意見件数が、前回より倍増しており、なぜ増加したのかを率直に検討する必要があると思う。人口減少の中で、市民の関心が高まった可能性もあるかもしれないし、今回の計画が十分でなかったために多くの意見を頂戴した可能性もある。また、電子メール等の普及により提出手段が広がったことも一因かもしれない。

パブリックコメントの中に、「もっと具体的に踏み込んでよいのではないかと」の意見があったように、10年後に計画する際に、2回目、3回目の総合計画に関するコメントを参考にすることで、よりよい計画書をつくることのできるのではないかと思う。パブリックコメントに対する分析の蓄積は必要だと思った。今後の検討事項としていただきたい。

(2) 第3期庄原市長期総合計画（答申案）について  
資料により事務局が説明

委員：12番については、78ページのことではないか。

事務局：78ページが正しい。修正はできている。

委員：59ページの「自治・協働の推進」に関して、ここに記載はされていないが、現在、自治振興区や制度の在り方を議論している。自治振興制度が発足して20年になるが、人口が減り、高齢化が進む中で、自治振興区の担い手がおらず地域の活力が無くなってきているため、自治振興区や住民自治の在り方の議論をしており、向こう10年の自治振興区の在り方やビジョンを作るべきではないかとの意見も出ている。しかし、総合計画に記載するほどのことではないためか、

まったく触れられてない。これからは、市民が中心となってまちづくりを進めていくというビジョンであるため、自治振興区の今後の在り方を課題として出し、どのように自治振興区と行政が関わり、どのように役割分担していくのか、どのように支援をしていくのか、自治振興区の統廃合の問題をどのようにするのかなどを、ある程度この計画の中に示していただきたい。自治振興区の会長の立場として、自治振興区の在り方についての記載を検討していただきたい。

教育に関して、不登校の問題が触れられていない。不登校は、年々増加し、自殺者も増加しているとの報道もあり、非常に深刻な課題だと思っている。将来、子どもたちがどうなるのか、教育の中で不登校問題をどのように対策するのかを共通の課題として挙げるべきだと考えている。一番悩んでいるのは、子どもですが、親や家族も悩み、先生も悩んでいる。このような実態を踏まえ、地域全体で不登校の問題を取り上げ、地域全体で子どもを守ることが大事であると思う。非常に難しい問題だとは思いますが、課題として取り上げるべきである。

事務局：自治振興区については、現在、振興区や担当課が次の世代を担う在り方を検討していることを承知している。そのため、長期総合計画にも記載すべきだと考えている。担当課と調整したい。

不登校の問題については、おっしゃる通りである。教育委員会に、どのような意図をもってこのような整理をしているのか、また今後、意見で言われたような対応ができるのかを確認、整理を行い、記載に向けて動きたい。

委員：計画案ができたが、まだ記載し切れていない課題がある状況と認識する。しかし、今から担当部局と調整をして記載することは、スケジュール的に困難である。一方で、本計画の良い点は、毎年度ローリングすることだと思う。1年後のローリング時に、この場に出た意見については、必ず検討することを議事録に残し、次年度の検討の際に見返すなど、今後に繋がればよいと思う。

教育については、同時期に作成されている教育振興計画の中で不登校問題は、扱われているのではないかと思う。もし、取り扱われていなければ、問題である。教育振興計画もご確認いただきたい。

事務局：スケジュールはタイトだが、必要なものは記載すべきだと考えているため、迅速に対応したいと思う。

また、ローリングの手法についても、早急に詰めていきたい。

委員：資料3の9番ですが、他のところでは、課題と施策が分けて整理されていますが、ここでは課題と施策が混同しているため、違和感がある。可能であれば、整理をお願いします。

長期総合計画のページ数が多く、今何章を読んでいるのか分からなくなってしまう。また、前後の確認も取りづらいため、ページの端に何章かわかるような表示をしていただきたい。

事務局：文章の表現については、再整理をしていきたい。デザインについても、分かりやすく、見やすいものにしていきたい。

委員：全体的な話だが、長期総合計画は大綱であり、これに基づいた個別の計画や所管課の年次計画が作成されるものであると思う。そのため、細かなことを示し難いことは理解するが、長期総合計画が策定された後に、各課の個別計画や予算計画が長期総合計画に則っているのかを確認することができるのかという点が重要だと思う。

もう一つは、時代や状況の変化により、長期総合計画に記載されていないことが生じることがあると思う。その際に、基本事項に立ち返り、年次ごとに対応していくことが大切である。

また、これだけ数がある施策をすべて同じ歩調で進めることは資源的に難しいと思う。重点的に進める部分を精査し、実施期間中に取り組めるようにしていただきたい。

事務局：総合計画は大きな方向性を示し、詳細に内容を記載するものではない。具体的な施策は、各部門が個別計画を作成する際に、総合計画の方向性に則った計画を策定することになっている。このことについては、庁内の意識は共有している。

今年度、農業や教育、地域交通などについては、同時期に計画を策定しており、総合計画とは整合を取っている。また、来年度以降、福祉計画等も策定時期となっているが、それらも総合計画に沿って計画する。

取り組み方やそのスピードについては、課題の大きさや取り組む時期を考慮し、資源や予算をどこに優先的に充てるのかについて、PDCAを回し、整理していきたい。

委員：私は、長期総合計画は、これから10年間のまちづくりの指針と理解していた。パブリックコメントが多く集まったことも、人口が減少しており、これから庄原市がどのようになるのかという点で市民の関心が高かったのではないかと思う。

また、「具体的なところが少ない」との意見が多く、表現が抽象的だとの指摘がある。市民は、例えば、「こういうものをつくる」というようなことを総合計画に求めているのだと思う。私も、審議会途中で誤解しかけたが、総合計画は羅針盤のように基本的な市の指針を示すものと理解しなおした。

この点が、気になったことではあるが、特段に文言等の修正を行う必要はないと思う。

一番大事なことは、必ず検証を行い、適宜修正をすることだと思う。これまでにない進め方で、総合計画を策定してきた面があると思う。是非今後の施策検討に活かしてほしい。

事務局：硬直化した計画にするつもりはないため、社会の流れに応じて、変化を恐れず対応していきたい。

会長：「市民の期待に応え、将来を担う人的資源の育成」について、「市民の期待に応え」という部分はなくてもよいのではないかと改めて思った。上二つの項目は「安心の暮らしの充実」と「将来に希望がつながっていく仕組みづくり」であり、三つ目を「人的資源の育成」としても内容は捉えることができるのではないと思う。「市民の期待に応え」がどこにかかるについて、多様に受け取ることができると、「市民の期待に応え」の言葉についてはなくても問題ないのではないかと考える。修正が冊子全体に関わるため、どのような思いを込めて織り込んだ言葉かを検討した上で、対応は事務局に任せる。

### (3) 答申について

資料により事務局が説明

委員：長期総合計画そのものにも色々といよいところがありますが、今回、一番良かったと思ったことは、企画課長が、「これがゴールではなく、ここから市民と協力をしながら進めていく」と言われたことである。

一方で、市民からすると、この計画を見たときに総合計画ができたと思ってしまう。そのため、計画策定までの過程やこれからの思いや意識を文章の中に入れてほしいと思う。計画の中に、これから一緒に実行していくことの大切さを訴える文章があると、市民として関わっていく前向きな気持ちが育まれるのではないか。

事務局：委員に確認をとる機会は時間的に難しいため、委員の総意が得られるのであれば、いただいた意見を反映したいと思う。そして、最終的には会長と調整をしたいと思う。会長、いかがか。

会長：皆さん、よろしいか。

(委員：賛成)

それでは、意見の内容を加えたもの確認を一任いただけるとのことで、最終的

に私の方で確認する。

#### 4. 意見交換

会 長：1年以上にわたり意見を頂いた。一言、振り返りや要望があればお願いします。

委 員：立派なものできたと思う。これを基に、良いまちをつくろうという議論や  
気持ちが高まっていくことを期待している。

委 員：良いものできたため、概要版は、皆に分かりやすく、手元に届く工夫をして  
いただきたい。また、確実に1年度ごとに改定をしながら進めてほしい。

委 員：私の関係する福祉に関しては、高齢者福祉計画、介護事業計画や地域福祉計画  
にどのように整合させ、具体的に何ができるかを肝に銘じて進めていただきたい。

委 員：障害者の立場から、障害者にも優しいまちづくりを進めていただきたい。  
障害者も軽度から重度まで色々な方がいるため、障害者へのサービスを分かり  
やすく教えたり、声をかけていただけたりする体制を組んでいただきたい。

委 員：良いものできたと思う。総合計画の委員としてではなく、会社の役員として、  
会社の10年後をシミュレートすると、60代、70代と20代、30代の比率は1/3  
程度となり、企業としては働き手の不足に危機感を感じている。危機感が強いのは、  
全体が見える立場の方だと思う。そのような方を巻きこみ、官民で実行して  
いくことができるのか10年後に変わるかに関わると思っている。

委 員：皆様と意見を出し合いながら良い総合計画ができたと思う。

10年後を考えると、農業ではスマート農業がこれから必要となる。今計画  
しても10年後に実行ができ、成果は20年後だと言われるが、今の段階で、先を  
見据えて計画することが重要であると切実に思っている。

公共交通についても、今は運転できるが、いずれ運転ができなくなった時の  
買い物や介護をどうするのかを考えさせられ、今から計画しておくことの大切  
を感じた。

教育についても、地域に子どもがいなくなり、学校の統廃合等の問題も出て  
くる。

このように総合計画を基に、問題について、都度話すことが大切だと思った。

市議会議員も多く来ている。市民が意見を色々出せる政治をしていただきたい。

委員：子育てに関して、庄原市は充実していると思う。一方で、小学生以降は、不十分だと感じている部分がある。そのため、この計画を基に、考えていただければと思う。

委員：本当に良い案ができた。

これまで、市役所に来る機会があまりなかったが、審議会等で何度か訪れるようになり、本日、市役所の中で変わったと感じたことがあった。以前は階段ですれ違ってほとんど言葉がなかったが、今朝は「おはようございます」と三度挨拶を受けた。変わって来ていると感じ、嬉しかった。ここからスタートだと思う。

委員：貴重な意見を聞かせてもらうばかりで、あまり意見をすることができなかったが、仕事や子育て、農業など自分が関わることが色々あると思った。私たちのまちが少しでもよくなるように、改めて考えて行動できればと思う。

委員：ワークショップにおいても、多くの若者が意見を出している。若い人が、将来どのようなまちをつくりたいのかを提案できる環境が整ってきました。議会も若返り、市長も交代された。総合計画は、基本的なことを示しているため、それ以上の成果を上げられるように、市長や市職員、議員の皆様頑張ってください。

委員：色々な方面で尽力されている方の話を聞き、考えさせられることが多くあった。また、行政の動きや仕組みを身近に感じることもでき、勉強になった。一方で、委員の立場として、できることを模索しながらの1年だった。

行政に関わることを諦めない、良い意味で関わる市民が増えることが大切だと思う。そこで、1月13日に口和地域で、総合計画のパブリックコメントを出すための出前トークを行政に協力いただき行った。このようなことを継続していくなど、学んだことや繋がりを生かして、意見を言いやすい場をつくっていききたいと思う。

委員：本計画をつくる上で、議会との調整など本当に大変だったと、行政に関わったことのある一人としてよくわかる。

総合計画はできたが、ハード事業など予算が必要な事業については、全ての事業をやることは大変だと思う。総合計画は羅針盤であり、行政主導で実行する

部分もたくさんあると思う。計画に書いてある行政主導でできる部分はしっかりと実行していただきたい。事業を予算で組まなければならない部分については、取捨選択をしながら、行政が主導し、市民のために体感できる施策の執行をお願いする。

委員：この会に参加し、良い勉強になった。

15年近く高齢者福祉に関わっているが、高齢者も年齢によって思いが違っている。この会に参加し、考えていることや行いたいことを市に言い続けることが大事だと思った。一昨年、駅のボランティアを行った際に、壊れている箇所を見つけ、直してほしいと市の職員に伝えたところ、直っていた。そのため、声をあげることは大事だと思った。

委員：第2期の長期総合計画は160ページ、今回は80ページであるが、これでも多く、中身を噛み砕いて消化するのは難しいと思う。この計画が少しでも前に進むように行政のみならず、議会とも協力して予算化して前に進めていただきたい。全国的な少子高齢化の時代ではあるが、魅力的な庄原をつくり、若者が庄原に残るような施策を行っていただきたい。

委員：委員になり、審議を通し、勉強させてもらった。庄原市の現状を知り、10年後を考え、そして自分の10年後も想像した。10年後に期待を持てる計画になった。

私たちは、これまで策定者だったが、今後、議会で承認されれば、議員、行政、市民の皆が実行者になる。そのため、覚悟、責任と勇気を持って取り組みたいと思う。

委員：初めて委員として参加した。大変だったと思いますが、良いものができたと思う。この計画が全てということではなく、修正されていくべきものだと思っている。どの世代にとっても優しい庄原市であり、庄原市で生まれ、生きて良かったと思うような場所であってほしいと思う。

私自身も勉強になった。

委員：私は、市内の小・中学校の保護者代表として参加した。この計画が進んでいく中で、子どもたちを取り巻く環境は日々変わっていくが、私たちは受け身にならず、自分たちでできることを行動していきたいと思う。行動をする中で、地域の方と子どもたちが光り輝き、地域の方々と良い関係を築けられればと思う。

副会長：事務局の長い間のご苦勞に感謝する。長期総合計画は、これからの 10 年に向けての大綱であり指針であり、細かい点は、各部署で進めていくものである。今後、事務局の方で、進捗状況をチェックし、確実に進めていただきたい。

会 長：皆の意見を聞いて思ったことを 1 つだけ述べる。これまで色々な長期総合計画の策定に関わってきたが、この審議会では改定をしっかりと行ってほしいとの意見が出ていた。そのような審議会は、初めて経験した。人口問題や AI など予測がつかない大きな変化が起こっていることを皆が体感していることを意味しているのだと思った。これまでは 10 年単位で考えてきたが、これからはもっと短い単位で考える必要があると皆が実感されているのではないかと思った。様々なかたちで対応を取らなくてはならない時代となってきたことを学ばせてもらった。

#### 4. その他

##### (1) 今後スケジュールについて

資料により事務局が説明

#### 5. 閉会

会 長：以上で、予定通り本日の議題を終了する。委員の皆様の 1 年を超える協力に感謝する。事務局が、かたちにしたものだが、我々が作成した計画であることを理解いただきたい。

事務局においてはタイトなスケジュールの中での作業に感謝する。様々な意見を聞くことができ、私自身も、庄原市への理解を深めることができた。今後の希望としては、多くの方に見ていただくことである。概要版の作成や色々な方が見る機会をつくり、庄原市が向かう方向性を共有し、要望や実施への協力を得られればと思う。

事務局：委員の方々の慎重な審議と貴重な意見に心より感謝する。一昨年の 12 月より 5 回の審議会と 2 回の専門部会の計 7 回を開催し、大変お世話になった。重ねてお礼を申し上げる。

今後、議会承認を経て計画策定との運びとなる。皆様が言うように、これはゴールではなく、今後、市民の理解をいただき、バージョンアップを行うことを考えている。庄原市は、「安心な暮らしが充実し、庄原に関わる人の未来がつながっていくまち」をめざしているため、将来像にあるように、まずは市民の安心な生活を図り、未来への挑戦にも取り組んでいきたい。現在、挑戦をしていく

ような取り組みも考えているところである。行政のみでは取り組みを進められないため、議会、市民、産官学等の協力を得ながら進めていきたいと思う。今回お集まりいただいた委員の皆様にも、引き続きご協力をお願いする。